

作新学院大学同窓会

communication file

発行日：2015.11.01
発行元：作新学院大学同窓会事務局
宇都宮市竹下町908
TEL 028-670-3655



鈴木 邦彦

経営学部 第1期生

すすき・くにひこ 在学中は大学祭を企画し実行委員長を務める。卒業後、地元銀行に就職。シンクタンクにて県内市町の活性化に携わった後に、大平町役場を経て栃木市役所入庁。大学院経営学研究科1期生としてMBA取得。作新学院大学客員教授。作大同窓会会長。

学生時代の人との関わりが、人生の財産になる。

私が第1期生として作大に入学した当時は、サークルもなければ、現在のような立派な校舎もありませんでした。ハードもソフトも、ほとんどゼロの状態からみんなで試行錯誤しながら色を塗っていった…その当時の人との関わりや、がむしゃらな行動力が、私にとっては大きな人生の財産になりました。現在、構内は整備され変化しましたが、仲間と横になってお喋りをした芝生や、大学祭の準備で泊まり込んだ部室棟など、思い出の場所はたくさん残っています。OB OGの皆さんにも、ぜひ大学祭などの機会に、思い出の場所を訪ねてみていただきたいと思います。

昨年度から私は、作大経営学部の客員教授として、学生たちに民間の経営法を取り入れた地方自治を講義しています。学生の皆さんには、同じ学舎を巣立ったOB OGの実践的な講義の中から、4年間の学生時代をどう過ごすかのヒントを一つでも見つけて欲しいと思います。私が作大で大きなヒントを得たように、学生時代に得たものは、必ず卒業後、社会で役に立つはず。何よりも大切なのは、積極的に人と関わること。繋がること。私自身も、優秀な



OB OGがリレー式で講義する授業の一コマ

学生たちと密接に関わることができる講義を、存分に楽しんでいます。

次号は、2016年1月頃UPの予定です

同窓会創設から21年、今年4月には作新学院大学の卒業生も6500名を超えました。同窓生たちは現在、国内はもとより、世界各地でさまざまな活躍をしています。その様子や近況等をお伝えし、同窓生の皆さまのコミュニケーションツールとしてご活用いただければと、この通信Fileを起ち上げました。今後、懐かしいお顔が登場するかも知れません。ぜひご期待ください。

加藤 隆規

人間文化学部 第10期生

かとう・たかのり 社会人として就労した後、「心理を学びたい」と一念発起し作大を受験。学部卒業後は、迷わず大学院に進学。一心に心理の道を極めようと歩み続けている。



心理の学びにゴールはない、だから面白い。

社会に出たときに、自分の回りにうつ病を発症したり、自殺してしまう人、悩む人がいっぱいいて、自分に何かできないだろうか、と考えたのが大学入学のきっかけでした。遠回りをしましたが、作大で心理と出会って、学ぶことの楽しさを知りました。先生との距離感が近く、さまざまな分野の幅広い知識を得ることができたと感じています。先生の影響は大きかったと思います。大学4年間で、目一杯鍛えられました。

現在は、臨床心理士の資格取得を目標に、大学院で学び続けています。心理の学びには、学び終わり、つまりゴールはないんですね。先があるからこそ面白い。勉強ではなく、生きるための学習です。ほぼ毎日大学に来てますし、ほとんど学習が趣味という状態になっています。年齢？…えー、今35歳くらい、ですかね(笑)。

将来は、発達障害児と関わって生きるためのスキルを身に付けさせたり、生きる辛さを和らげるお手伝いがしたいと考えています。修士論文は、スキナーの言語行動のタクト(報告言語行動)をテーマに準備を進めています。例えば、発達障害の子どもに質問をしても、まったく予想外の答えが返ってきて、会話が成立しないことがあります。それがなぜなのか、どうすればその子が生きやすくなるのか、発達障害は予防できるのか…まだまだ学びたいことばかりです。



学部在学中に、大学院の演習「まなび〜」で河童姿を披露(後列中央が加藤氏)

INFORMATION

2014(平成26)年度ホームカミングデーが開催されました

11月8日、清原キャンパスに於いて平成26年度ホームカミングデーが開催されました。参加したのは、大勢の大学・短大の同窓生や教職員。船田元理事長、太田周学長もセレモニーに出席し、大学の現況報告を行いました。また、「地域で学び、地域で働くということ〜地方大学とOBの役割〜」をテーマとしたディスカッションには、パネラーとして大学同窓会の鈴木会長、尾花副会長も参加。地域と大学の関わり等について活発な意見交換が行われました。



思い出話に花が咲いた懇親会